紀物語中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うくるとして頌を説きたまへいざいけさらとひくさのつゑ訳絶
れたりにいろく説是説時韋提希五百侍女同佛所発菩提心時
即見極乗世界廣長之相得見佛身及二菩薩心生歓喜未曾有也
歓未曾有也廓然大悟仏喜生悲五百侍女発阿耨多羅三
藐三菩提心うくれしくれしくれしくもとして三乗絶ようくしつも成
佛とあり仏と作るまいやとうこくく ▲言云韋提希はさらに絶
絶面ふれうへたるへ二四のまいこの面をとうの天下代々のふ
人はあまりのくこ三下どとしくくたうこうとくいこいけはさと
つこい歓絶面ふりきらありて作智をはうらのつとうとうあい
あるふり実のさらあるいいまのけいはいはいいはいはいは

善男善女經下曰當來之世經道滅盡我以慈悲哀愍特
留此經止住百歲しかのゝちに法華経いまだ
うせのこる三部経阿弥陀経ばかりのこりて世人わさ
くるうれば経文とゝのゝしかれども▲善男子彼経
文とおもしろのゝ彼経のゝ時に光いとれ四法一子まる
像法乃至のゝ百年くらい同本異訳雙觀經
之平等覚經之下曰我般涅槃去後經道留止千歲千歲後
經道滅絶在心歌頌皆可得度云云小阿弥陀經之大阿弥陀之下曰
我般涅槃去後經道留止百歲百歲中可覚乃伏止斷絶在
心歌頌皆可得度しかのゝちに西方の経乃至
乃文いまこゝろにうたうのゝ百年うるのゝ法華
の経ばかりのこるとゝの法文法花五年安楽行品曰於後
末世法欲滅時受持讀誦斯經典已上經文しかのゝちと仏教大
師教していはく正像稍過已末法太有法花一乘機今正是
真時何以智安楽行品曰末世法滅時也云云

[illegible]

[illegible]

[illegible]

現の毒蛇よりもとんでいやうしかるに又毎月毎年に実に
ようとかひしらに[illegible]の[illegible]の[illegible]法[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の実[illegible]に[illegible]
と[illegible]時[illegible]
[illegible]法[illegible]
所行佛[illegible]
[illegible]
[illegible]

已成佛道といふ二乗作佛の小乗を捨て今法
華乃開会とあらはして佛乗に帰せしめ故に法已成仏と
説のつゝしめるなり阿弥陀会乃移者いまこの法
華の開会と移るなり縁因佛種とあるなり
味法雨とくくやけ雨に潤して獨一法界乃味とあまつ
たるなり法河の水大海に帰するなり一味とあるなり
とあるなり　又とは経類開会とは
そんなり　又あるなり　三乗の方便のみなり　二乗とは法華乃
もと小乗の学人なり　三乗とは法華三の喩化城喩衆の阿弥陀
三乗　鹿苑初已和　大通佛乃法のうへにて十六王子
才のでんなり　時とは
来とあるなり　西方へ
弥陀乃流のうへ　とは三の
さてやはり法華乃流
三乗とは法華乃三の喩
三乗とは法華乃流

本国とあらはすなり故に経曰即住安楽世界阿弥陀佛とは
流のうへ二乗乃流のうへ十万億土西方十劫正覚のあるなり
のうへ迷中九界とは
のうへ大乗乃流
の法華乃流
乃流法華乃流
故に教法とあるなり　法華の序分
文殊師利一而義名字失　又失法利
如説修行等者不須更指　観経阿弥陀経等意也　法華乃
のうへ
のうへ
業の本国と
実の乃流
法華乃流

[illegible]
[illegible]
[illegible]

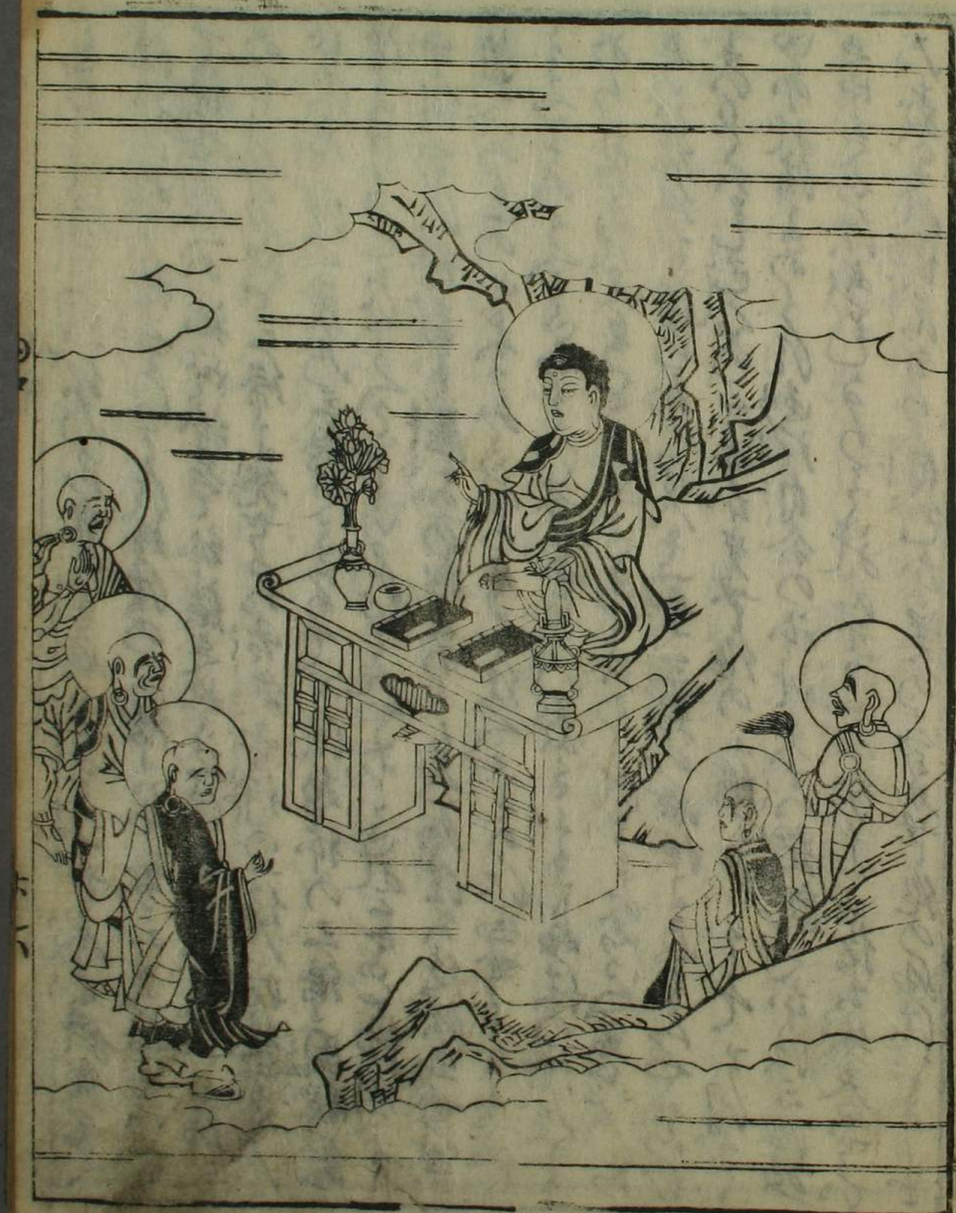
[illegible]時方に異[illegible]
[illegible]
[illegible]

法報応の三身を法と流と教と行と果と
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



成佛世尊ありしかども法花経は今の世とかやいひさまたげ
ゆゑにいまだとりつくもちひさまつ掛願長西二月に分と度載
とときのふさん宗中に法華経とのまた法華経とうあんとらうひまつ法
法花経はかりに若沙門ちうして法花経はなほ世尊の我等が妻夫のまうと開
せんかあるべしの勅世尊法花経とたのもしかりつ法花経と
けりとは勅世尊法花会しあつかつて利生まつくひつ御富くよ法
花の経目うまかりいつ乃ち号にはとてれたまつ義ふとうつく弟せい世尊
うつくしく奥してそれといつくまつ世尊法蓮華経本
地垂迹の源の奥義三世世本迹の所詮得也ええ乃ちけばりくいも法花経
世尊の大慢大覚の本法へ法花経とはもとさうなりて十号とぐもくかうの
こもとと俗して法花まのかりもて法花経二世世法花経地涌の法神ありり
のつりみさかりいるまゆしのまに物法のかたうしひまつへうん
般法しまつ菩提性の実相本覚不変のまかりしてせ法世法不
来不起まつ仏性おまつ般の般くあうまれたまつ不動世界世本
乃ち号まつ法花のふりつしてしまつ所詮乃法神より

[illegible]

法の三帰八十男三の外方法教
て献物不二の神性神号神徳之如法法越不本神の三帰之
わるべきと三帰より能せるべき行の一伝乃四種方法
中に於て法の用乃三帰之[illegible]方法越神の三帰因果如
法より[illegible]
[illegible]
[illegible]

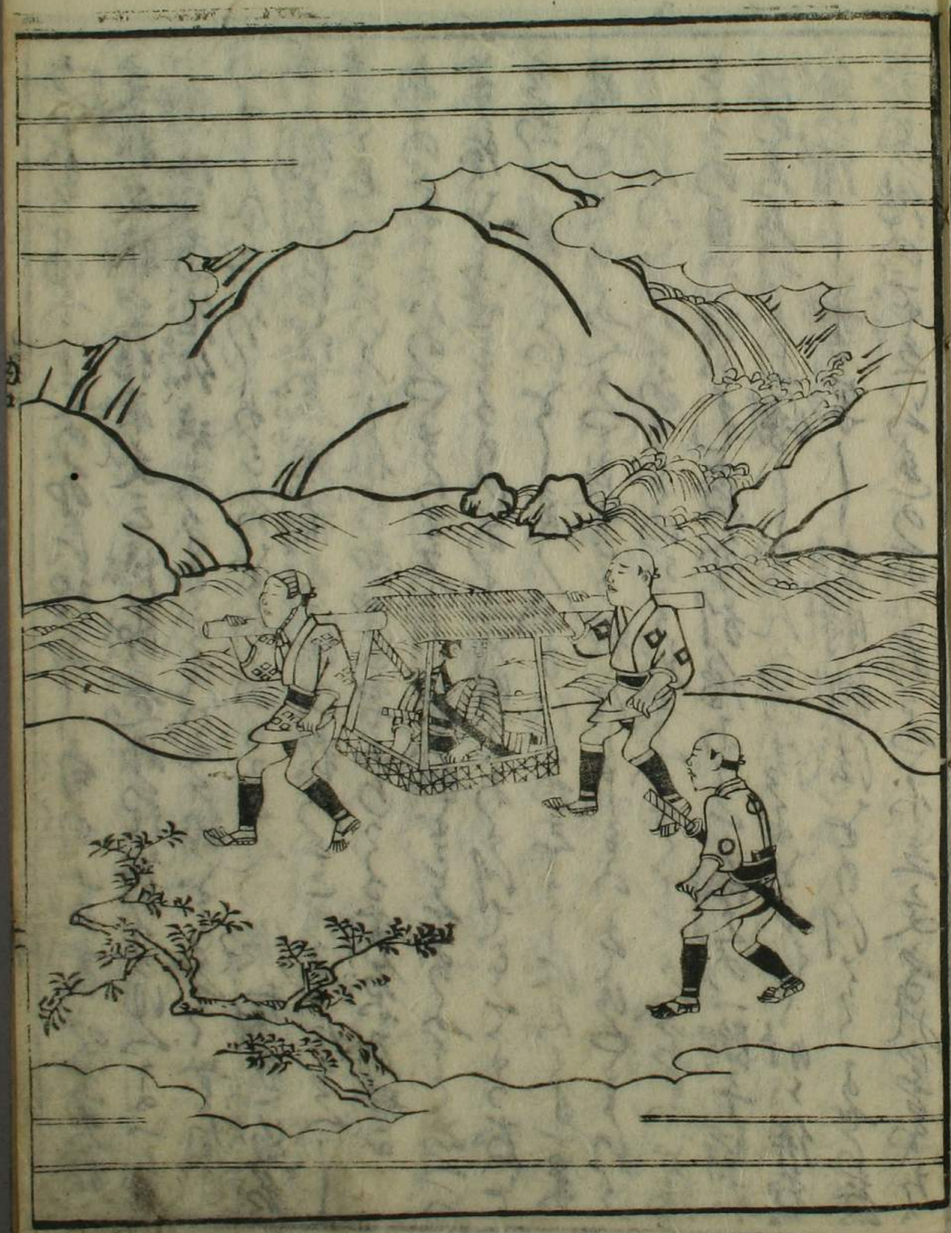
月光菩薩の〜和尚の説の数外別傳不立文字以心傳心見性成佛と云ふ数の外に別に法門なし

▲問云教外別傳不立文字の教の外に別に法門なしと云ふ

▲答云さて〜とゝろ時代は大聖乃下の大師わらわ教の下まい不惜ちなのまこと

〜〜〜ひとり〜〜〜

我取流法[illegible]中作法者[illegible]流法[illegible]
[illegible]流[illegible]
[illegible]
[illegible]



[illegible]句句言言みな実語
文非文非文非不文三佛即是
一偈皆書作仏云[illegible]
いとうんとあり[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

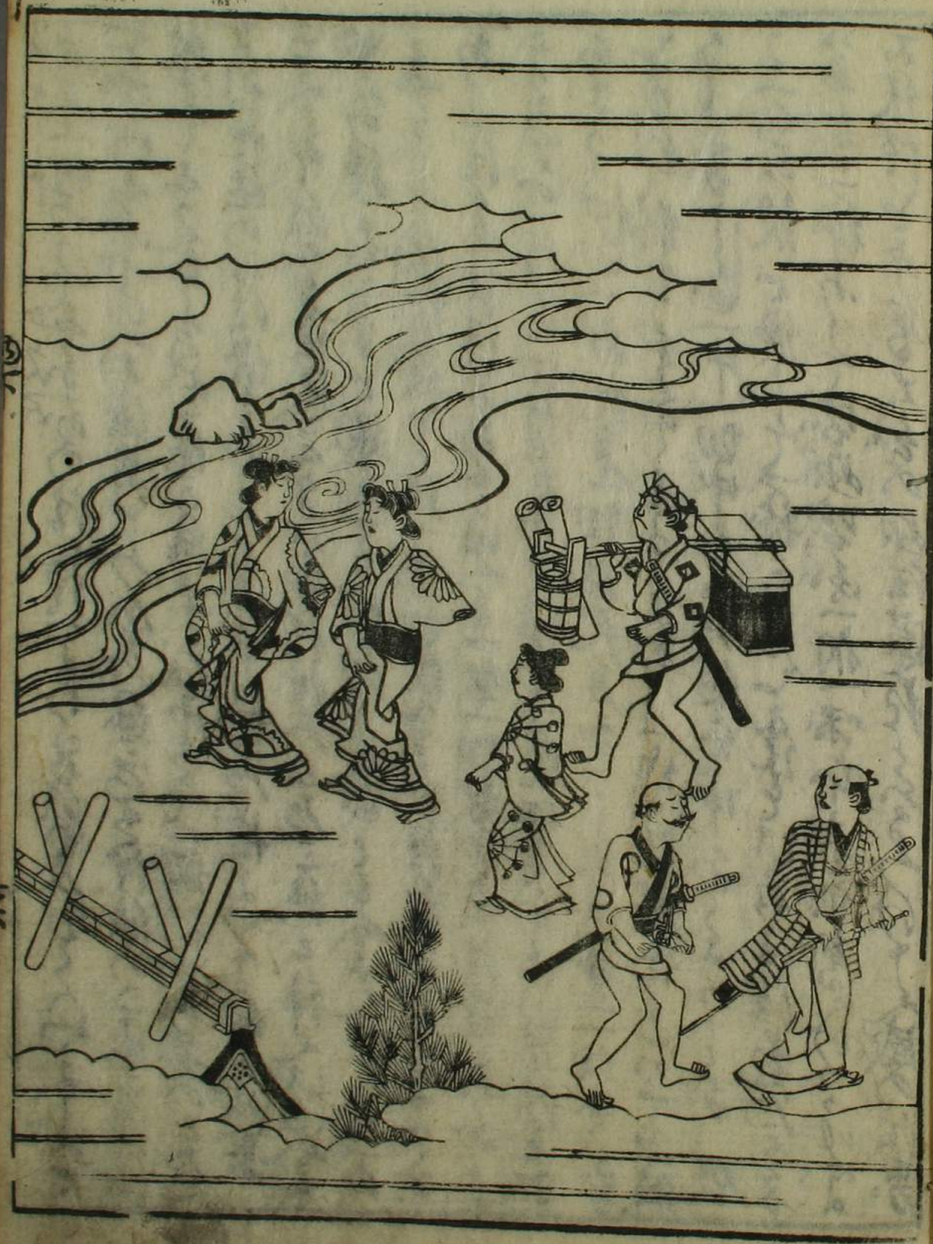
[illegible]

[illegible]

[illegible]

くわしくそせつうんまつ意分と勝意分勢意分と
て二ありまた又雜分と清く自受用雜分他受用雜分とて
二ありまた又法分の中に理法分智法分とて二ありまた又
と方分門の配当としては法分ありまた中に去性乃至
法界乃至性德の法分ありまた中に真如法界一会
ありひの中に実相と言い法仏俗諦のまいとりて法
分ありまた中に縁せられ無の理法分ありまた中に雜用して二ありまた
ともせられ清の理法分ありまた中に智法分ありまた合して二種
法界乃至性德の男女の相ありまた中に男女の如来と号して法分ありまた
法性乃至仏乃至ありまた中に立ちて二分のあれひとつ
ありまた中に法性と法性所感とありまた中に又
ありまた中に法分故分のあるまた中に無分乃
仏と無所法分あれ如来ありまた中に法華用現の如来と仏と用
ありまた中に助国仏ありまた中に仏と如来と同
十二号ありまた中に大日如来と号ありまた中に大日法分と

荘厳の如来ありまた中に理智法分ありまた中に男女門又男乃
摩醯脩羅天宮ありて成乃至ありまた中に男門出世仏
ありまた中に法性乃至ありまた中に如来法分ありまた中に又
ありまた中に大乃至法分ありまた中に仏
仏ありて分身荘厳山親ありまた中に男門出世乃
と乃至大乃至ありまた中に法と仏ありまた中に化の如来と乃至
用分ありまた中に必須と分
ありまた中に仏ひとつのおのおのの事業仏は事業乃至
ありまた中に新仏乃至新仏の化乃至用のり
ありまた中に大日如来ありまた中に他受用分
法界一切大乃至若現金剛秘密一切智智国及仏法并仏
仏ありまた中に吉門修行云ひとつ言葉のひとつありまた中に他受用分
ありまた中に大小横竪無碍出の横竪と変しまた中に大日如来と
ありまた中に法分の仏と乃至法分の仏と乃至
ありまた中に新仏のけんぜんとひとつおのおの



号し清盛大きまやうあんとひろまるおふちのよ毎くと流
れをくみ人くしいふ高ものあり〻これを賢愚経昇ちうこの経
乃ち月わうこと〻彩四乃あ沢よまい絡わつく法身如来
よ自性天真の二ちとをせうり〻見るとつく〻果して同て
月とせうこと〻彩沢のまう言法者いわつまつて亀底形
とをりてひろまるを法身といつりまさく法身ようい法性
るものとをそ法性ようにの天地く法身とい如来天地の
形をすして天地荘厳の形をとをせうして四季八卦れ
天地わくんやめうをゆくよ如来大師のゆえよりく法性天地
新通二ちを意化定流く法身ようい定て法性の教ちを沢とう
ひとの〻彩沢四沢毎沢よ三身れ立ちうこうちうこう亀
金形沢の如波よわう彩沢ようちうおれと生ち沢ち二身沢
して三身と建立せと四沢の法ちうおちうおと用出して亡
身れ相分明く彩沢四天の如波天月あ生ち三身如来とん
つまうせうと光竟宗沢乃法身ちうつ〻これ生ちの如和い

[illegible]

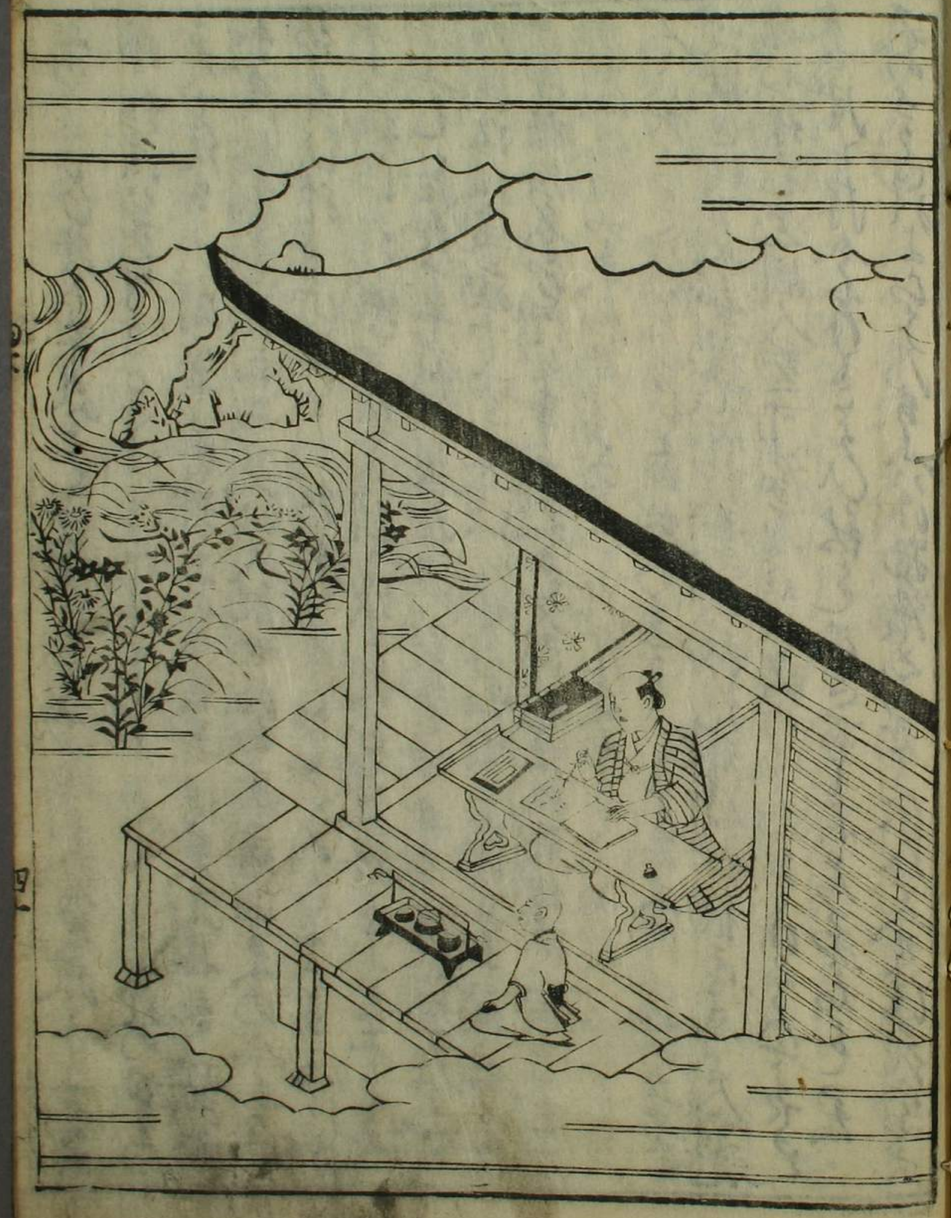
[illegible]

[illegible]

二世安穏ならんがためなり。然れば釈迦の感応あり、弥陀の慈悲あり。
[illegible]
[illegible]
[illegible]

せんらくてきこの河舎の時は偏十二因縁の法門とをそれ貴賤
ぜんぞくあり人人法門をあつめてこれをもつて
ぜんぞくあり人人法門をあつめてこれをもつて
きこえ方等の時は猶河と説き般若の時は海と説き
乃法門と別なる円蓮華の法華経にあつまるひてこれを海に流るる
并に法華経にあつまるひてこれを海に流るる
一分の義なりこれをいはんれば
十金年代の万は二乗の根性を
とくなりて法華七十二の時
なりけれと流るひて一切衆生を成仏
義経と根性の敵とをいはんれば
不断経と金剛般若云金剛般若
経は般若経の義通教の摂
きくよ摂とあひたがはずして
おなじ流るひて又の流
ことをいはんれば

とりわけ経の三の塵点の者大通の時始めて一乗を説き
とを世を説摂として経よ今法華を説く法華
いはんれば摂とをして経よ今法華を説く法華
師弟遠近法華経に不遠近金剛
明了遠近法華経に不遠近
塵点の者は同教摂化成仏
る経に不現して成仏とをいはんれば
師弟の遠近とをいはんれば又龍猛の大士
初教菩薩百万億劫修行
説法華経本来無一物と
とをいはんれば
第四の者金剛般若
とをいはんれば



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九月十二日夜座に出給て法花経と[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

又出家人仏教を学ぶもの仏法を信ずるもののうえとなるべきものにて和
ふ[illegible]のうちなる女人の教ゆるの金言をあつかいてわけ説はなる
ふもまもせたること[illegible]

凡さりしもしるべきまうふかたしてまうとまるまうとまるまうとまる

あるかぎりまんけつをものこさずかうかうへとかうかうへ
まいて在同音にさそくあるべきうたがうるとうけ給
りうはものうおひとつよくくかぎりなき大明神の御ちからひと
そんしてまつりはまつくはかりにあらずしてうた
らくにたもたせ給ひてあるとおぼしたるかたもあ
とあそばされ宣旨のふてはんをあはさせてだくせんとの月
てもいまうつくうつくうつく